

令和4年度 第一回 国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会

日時：令和4年5月27日（金）

13:30～15:30

場所：国営海の中道海浜公園事務所

議事次第

1. 開会

2. 議題

1) 国営海の中道海浜公園の利用状況、本協議会の進め方について

①令和3年度 海の中道海浜公園の利用者数の報告・・・・・・・・・・資料1

②本協議会の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2

2) 各主体における昨年度の取組内容及び今年度の取組内容

前年度取組の報告、今年度取組計画の報告・・・・・・・・・・資料3

(参考資料1～7)

3) サイクルツーリズムの取組について・・・・・・・・・・資料4

3. 閉会

以上

○配付資料

配席図、参加者名簿

協議会規約、委員名簿

資料1 令和3年度 海の中道海浜公園の利用者数の報告

資料2 本協議会の進め方

資料3 各主体における昨年度の取組内容及び今年度の取組内容

資料4 サイクルツーリズムの取組について

参考資料1 取組参考資料（海の中道管理センター）

参考資料2 取組参考資料（ザ・ルイガンズ）

参考資料3 取組参考資料（海の中道マリーナ&テニス）

参考資料4 取組参考資料（青少年海の家）

参考資料5 取組参考資料（海の中道パーク・ツーリズム共同事業体）

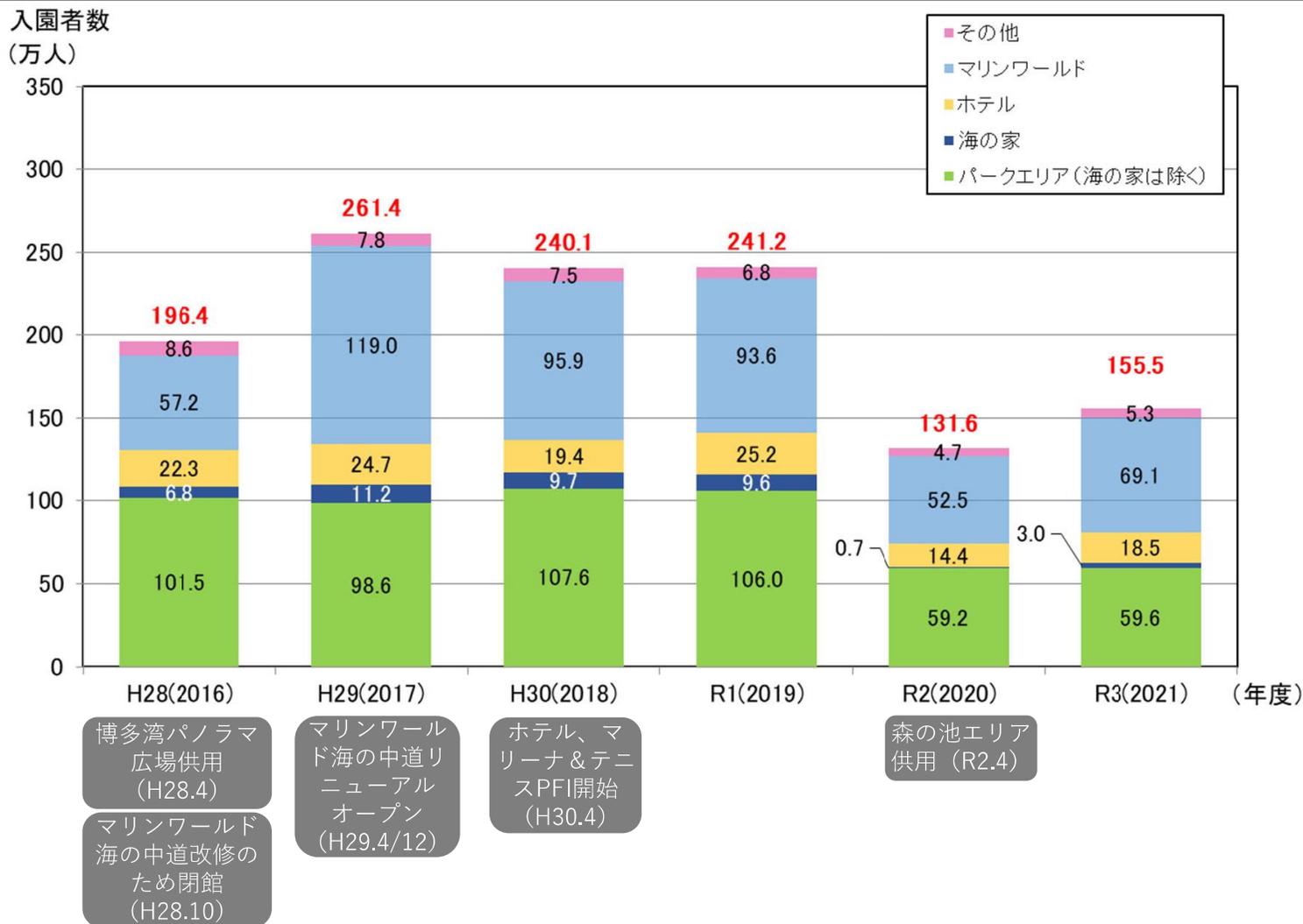
参考資料6 取組参考資料（国営海の中道海浜公園事務所）

参考資料7 取組参考資料（マリンワールド海の中道）

令和3年度 海の中道海浜公園の 利用者数の報告

直近6年間の入園者数の推移

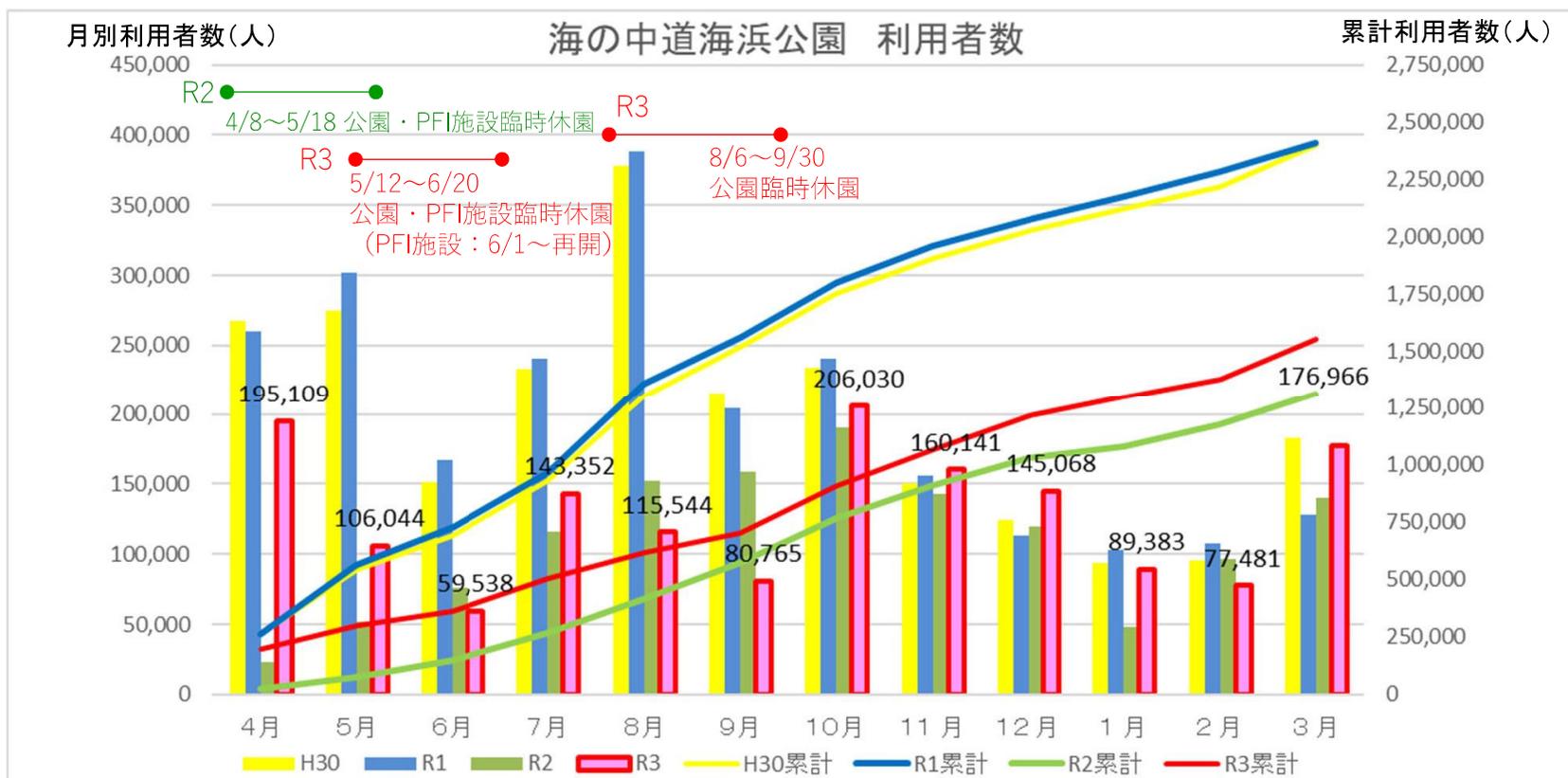
- 平成28年度から令和1年度までは、200～250万人前後で推移していたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う閉園等により132万人に半減。
- 令和3年度は、約156万人が入園。



平成30年度～令和3年度までの月別利用者数

○令和2年度の公園の利用者数は約132万人（昨年の約55%）
 ○令和3年度は、4月は例年に近い入園者数となったが、
 5月12日から6月20日まで福岡県が緊急事態宣言の対象となったため臨時休園。
 7月は去年度より入園者数が増えたが、
 8月6日から9月30日まで福岡県が緊急事態宣言の対象となったため臨時休園。

R3年度の利用者数内訳
 ●パークエリア:63万人(対前年比104%)
 ●マリンワールド:69万人(対前年比131%)
 ●レイガンズ:19万人(対前年比129%)



本協議会の進め方

本協議会の進め方

- 今後、年2回定例で協議会を開催し、当年度の取組み予定や結果の報告、メンバー間での調整等を実施。（必要に応じて臨時開催等もあり）
- 協議会での協議結果を踏まえ、具体的な取組の進捗確認、連携施策の具体化等を園内関係機関の会議（月1回）にて実施。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会		●						●				
園内機関の会議		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
<ul style="list-style-type: none"> ・管理運営委員会（所長級） ・利用促進・サービス部会 ・施設保全部会（課長・係長級） 												
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 年度計画の報告 前年度取組の報告 </div>												
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 助言、提案調整等 </div>												
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 取組の中間報告 </div>												
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 助言、提案調整等 </div>												
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・ビジョンの実現に向けた取組の実施、情報共有 ・関係機関での連携施策の提案、調整 ・特定テーマ（ワーケーション、広報等）の具体的検討 等 </div>												

各主体における昨年度の取組内容 及び今年度の取組内容

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道管理センター】※令和3年度フォローアップ

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																		
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)									
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																								
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	○マリーナ連携「クルージング体験」（10月） ○マリンワールド連携「水辺の生き物観察会」「サンショウウオ観察会」（7月）																			
			●2021年度（R3年度）～ ポータルサイト開設し、公園全体の魅力を発信	ポータルサイト開設（4月）																				
	公園の外との連携強化	●公園、志賀島や西戸崎等の地域関係者がオールうみなかで地域の魅力を発信する「（仮称）うみなかたび推進会議」を設置し、ポータルサイトなどによりエリアで一体となった情報発信を行う。	“うみなかたび”ポータルサイト設置 海の中道エリア一体となった情報発信	●2020年度（R2年度）～ 会議開催を通じ、公園施設や地域一体となった旅のプランを企画し、ポータルサイト等で情報発信	○会議開催 年2回会議開催 ○旅のプラン 休暇村と連携した通年型スタンプラリー開催（4～3月）																			
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	食の魅力の充実	●地産地消、食育などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。	四季折々のイベントの魅力を高める多様な食体験の充実	●2020年度（R2年度）～ レストランにてフードフェア実施 ●2020年度（R2年度）～ 秋イベントにてアジアメニュー ●2020年度（R2年度）～ 冬イベントにてホットメニュー提供 ●2022年度（R4年度）～ 春イベントにてコーヒーフェスタ実施	○夏・冬季にレストランにてフードフェア開催 ○春季イベントにてコーヒーフェスタ実施 ○冬季イベントにてホットメニュー提供																			
			“いまだけ・ここだけ・気軽に”を楽しめる飲食サービスの充実（「花カフェ」の運営、インクルーシブカフェの設置）	●2020年度（R2年度）～ 春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ●2022年度（R4年度）～ 大芝生広場レストハウス内売店にて飲食メニュー充実	○春・秋季を主に季節売店の営業（花カフェ）																			
地域活性化	地域活性化	地元と連携し、収穫体験、釣り体験等のアクティビティ、志賀島と連携したサイクルツーリズムなど、公園を起点とした地域観光への誘導を推進する。地域との連携によるイベントの開催などにより、公園と地域の集客施設等との相互利用を促進する。	「サイクルツーリズム」により公園と地域をつなぐ観光振興を主導	●2020年度（R2年度）～ 地域民間事業者や福岡市と連携し自転車観光促進等を促進。渡船場より園外レンタサイクルを実施	○港レストハウスを起点に志賀島・西戸崎・雁ノ巣・アイランドシティ等周遊を目的とした園外レンタサイクルを実施																			
			「キャンプハカタプロジェクト」による“地域の新しい魅力”の発掘	●2020年度（R2年度）～ 秋季に地元商工会等と連携し西戸崎地区を中心としたサイクルガイドツアーを実施	秋季に地元商工会等と連携し西戸崎地区を中心としたサイクルガイドツアーを実施（10月⇒連携先都合により中止）																			

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道管理センター】※令和3年度フォローアップ

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																	
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)								
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																							
海の中道固有の白砂青松の 景観の保全、再生	マツ林育成	●玄界灘側のD地区未供用区域のマツの植栽等を推進する。 ●樹幹注入等の松くい虫対策や植林箇所の密度管理等、マツ林の育成保全の取組を継続して実施する。	若年マツの保護育成、間伐、松枯れの予防保全	●市民共働による保全作業と計画的なマツクイムシ防除を実施	○市民共働による保全作業（年5回程度） ○計画的なマツクイムシ防除を実施（適宜）																		
	多様な主体との協働	●公園内外のマツ林育成保全のため、マツ林の保全活動に取り組む自治体、市民団体等との協働、情報共有等を推進する。 ●江戸時代から続くクロマツ林の植林の取組みを紹介するガイドツアーやボランティアによる植栽、海岸清掃などを通じて市民と協働で白砂青松の景観を保全する。	「白砂青松海浜公園サミット」の開催	●2022年度（R4年度） 松林の保全活動に取り組む団体等に呼びかけ開催。活動課題や良好事例の情報共有及び今後の活動にフィードバック	○松林の保全活動に取り組む団体等と情報交換																		
教育施設、環境学習フィールドとして活用	人材育成	●環境教育の指導者を養成する講習会の開催など、人材育成の取組みを推進する。	「環境教育指導者養成講習会」の開催	●2020～2021年度（R2～3年度） 一般募集及び公園関係機関スタッフ対象に開催 ●2022年度（R4年度） 九州JAZA会員の動物園・水族館スタッフ対象に開催	○一般募集及び公園関係機関スタッフ対象に開催（11月）																		
	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	新たな環境学習プログラムの実施（水辺の生き物観察体験、プロジェクトワイルドin森の池等）	●2020年度（R2年度）～ 新規開園した「森の池」を活用したプログラム提供 ●2020年度（R2年度）～ マリンワールドと連携した保全活動の普及啓発イベント実施	○「森の池」を活用したプログラム提供（10月） ○マリンワールドと連携した保全活動の普及啓発イベント（7月）																		
			「森の池市民協働運営協議会」による運営管理のコーディネート	●2020年度（R2年度）～ 協議会参画団体の協力を得た「森の池」の利活用プログラムの提供	○協議会参画団体の協力を得た「森の池」の利活用プログラムの提供（10月）																		
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																							
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	ビーチラン	●2021年度（R3年度）～ 玄界灘の海岸線を活用したランイベントを開催	○玄界灘の海岸線を活用したランイベントを開催（11月）																		
			サンシャインプールでの水泳教室、水中エクササイズ等プログラムの実施	●2021年度（R3年度）～ 夏季に各プログラムを実施	○プール営業中止																		
			「サイクルツーリズム」により公園と地域をつなぐ観光振興を主導	●2020年度（R2年度）～ 地域民間事業者や福岡市と連携し自転車観光促進等を促進。渡船場より園外レンタサイクルを実施	○志賀島、雁ノ巣のレンタサイクル事業者や福岡市、地域の事業者等と連携した「サイクルツーリズム」の展開																		
	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	花を愛でながら食事が楽しめる花カフェの設置	●2020年度（R2年度）～ 春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ●テーブルセット等配置し休憩スペースを創出	○春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ○一人一花運動との連携イベント（4月）																		
ハーモニーとコントラストによる「花の丘」の再デザイン			●春：桜とネモフィラの色彩が織り成す見所づくり ●秋：秋空と紅葉コキアによる花風景の演出	○春：ネモフィラ ○秋：コスモス（コキアは虹・彩の花壇）																			
市民協働による桜並木の創出			●桜の園の魅力向上と老朽化した桜並木の再生を目標に、市民協働で補植を実施	○市民協働で補植を実施（3月）																			
癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		○スマホを活用した非接触型のデジタルスタンプラリー（4～5月） ○花カフェ設置（春・秋） ○一人一花運動と連携した新規取組「みんなであつこうミニガーデン」（4～5月）																			

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道管理センター】※令和3年度フォローアップ

: 全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）											
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		
						(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)		
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																	
市民参加の場の充実	市民参加	●市民発案のプログラム、地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムなど、市民が主体的に提供するプログラムを充実する。	市民とともに創り上げるプログラム（パークフィットネス）	●2021年度(R3年度)～地域のインストラクターが講師となりヨガ教室などを開催	○地域インストラクター講師のヨガ教室（4月・10月）												
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かした企業研修の場としての公園利用の推進	●2021、2022年度（R3、4年度）に公園を活用した企業研修のメニューの開発、試行を実施	○福岡型ワーケーション推進に向けた「パートナー」登録（4月） ○東区歴史ガイドボランティアと連携したシニア主対象の「森の池歴史ガイドウォーキング」（9月⇒連携先都合により中止）												
ユニバーサルデザインの考 えに基づく整備・管理運営	ユニバーサルデザイン	●ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ●障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを享受できるプログラムや施設の充実を図る。	すべての子どもと一緒に楽しめるインクルーシブ・プレイグラウンドの整備	●2022年度(R4年度)以降、カフェリニューアル後に収益の一部を還元し、大芝生広場レストハウス周辺に遊具を段階的に設置	○遊び場に関するワークショップ開催（10月） ○カフェリニューアルにあわせ「遊び場」試行（3月～）												
			大芝生広場レストハウス内売店をみんなで創り・育む「インクルーシブ・カフェ」にリニューアル	●2021年度(R3年度) 設計 冬季に改修工事着工 ●2022年度(R4年度) 春季 リニューアルオープン	○大芝生広場レストハウス内売店リニューアルにむけた設計・冬季の改修												
			障がいのある方も安心して楽しめる「動物ふれあい出張プログラム」の実施	●2021年度(R3年度)～ 大芝生広場レストハウス周辺にふれあいコーナーを設置し、動物スタッフが側面支援	○カフェリニューアルにあわせ動物ふれあいコーナーを設置試行（3月）												
			動物の森において、障がい者の心身の活性化に役立つケアプログラムを提供	●2020年度(R2年度)～ 青少年海の家の利用団体等を対象に開催	○青少年海の家の利用団体等を対象に開催（11月） ○福祉施設を対象に出張プログラム提供（11月）												
	園内移動	●公園全体の交通ネットワークの再整理を行った上で、サイクリングコースやバスルートの再編、新たな休憩・交通の拠点の整備など必要な対策を実施する。 ●広い公園をスムーズに、楽しく移動できる新たなモビリティの導入などにより、園内の回遊性を高める。	広い公園を“スムーズに楽しく”移動できるサービス向上（デマンド交通社会実験、パーソナルモビリティ 等）	●2020～2021年度（R2～3年度） パーソナルモビリティ活用の実証実験、及び既存園内交通の課題抽出 ●2022年度(R4年度)～ 既存園内交通に代わるサービス導入	○パーソナルモビリティ活用の実証実験（4～5月、7～8月、10～11月） ○園内交通の課題抽出と本格導入にむけた準備（下半期）												

○ 4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道管理センター】※令和4年度取組目標

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																		
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)									
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																								
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	○マリナー連携「カヤック体験／クルージング体験」（6月／10月） ○マリンワールド連携「水辺の生き物観察会」（7月） ○P-PFI連携「福岡市ワーケーション事業」（7月～） ○海の家連携「白砂青松海浜サミット」（11月）																			
			「うみなかたび」ポータルサイト設置 海の中道エリア一体となった情報発信	●2021年度（R3年度）～ ポータルサイト開設し、公園全体の魅力を発信	○季節のおすすめ情報や観光情報等を適宜更新（年2回）																			
	公園の外との連携強化	●公園、志賀島や西戸崎等の地域関係者がオールうみなかで地域の魅力を発信する「（仮称）うみなかたび推進会議」を設置し、ポータルサイトなどによりエリアで一体となった情報発信を行う。	「うみなかたび」でのプロモーション主導（うみなかたびプロデュース） 「うみなかたび推進会議」開催	●2020年度（R2年度）～ 会議開催を通じ、公園施設や地域一体となった旅のプランを企画し、ポータルサイト等で情報発信	○福岡市ワーケーション事業への参画（7月～） ○「全国都市緑化フェアくまもと」キャンペーン出展（4月）																			
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	食の魅力の充実	●地産地消、食育などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。	四季折々のイベントの魅力を高める多様な食体験の充実	●2020年度（R2年度）～ レストランにてフードフェア実施 ●2020年度（R2年度）～ 秋イベントにてアジアメニュー ●2020年度（R2年度）～ 冬イベントにてホットメニュー提供 ●2022年度（R4年度）～ 春イベントにてコーヒーフェスタ実施	○夏・冬季にレストランにてフードフェア開催 ○春季イベントにてコーヒーフェスタ実施 ○冬季イベントにてホットメニュー提供																			
			“いまだけ・ここだけ・気軽に”を楽しめる飲食サービスの充実（「花カフェ」の運営、インクルーシブカフェの設置）	●2020年度（R2年度）～ 春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ●2022年度（R4年度）～ 大芝生広場レストハウス内売店リニューアルにより飲食メニュー充実	○春・秋季を主に季節売店の営業（花カフェ） ○芝生広場レストハウス内売店をPlay Caféにリニューアル 手作りメニューやスイーツの充実																			
地域活性化	地域活性化	地元と連携し、収穫体験、釣り体験等のアクティビティ、志賀島と連携したサイクルツーリズムなど、公園を起点とした地域観光への誘導を推進する。 地域との連携によるイベントの開催などにより、公園と地域の集客施設等との相互利用を促進する。	「サイクルツーリズム」により公園と地域をつなぐ観光振興を主導	●2020年度（R2年度）～ 地域民間事業者や福岡市と連携し自転車観光促進等を促進。渡船場より園外レンタサイクルを実施	○港レストハウスを起点に志賀島・西戸崎・雁ノ巣・アイランドシティ等周遊を目的とした園外レンタサイクルを実施																			
			「キャンプハカタプロジェクト」による“地域の新しい魅力”の発掘	●2020年度（R2年度）～ 秋季に地元商工会等と連携し西戸崎地区を中心としたサイクルガイドツアーを実施	○春季に地元商工会やP-PFI事業等と連携したサイクルガイドツアーを実施																			

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道管理センター】※令和4年度取組目標

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	計画スケジュール（年度・予定）											
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)		
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																	
海の中道固有の白砂青松の景観の保全、再生	マツ林育成	<ul style="list-style-type: none"> ●玄界灘側のD地区未供用区域のマツの植栽等を推進する。 ●樹幹注入等の松くい虫対策や植林箇所の密度管理等、マツ林の育成保全の取組を継続して実施する。 	若年マツの保護育成、間伐、松枯れの予防保全	●市民共働による保全作業と計画的なマツクイムシ防除を実施	○市民共働による保全作業（年5回程度） ○計画的なマツクイムシ防除を実施（適宜）												
	多様な主体との協働	<ul style="list-style-type: none"> ●公園内外のマツ林育成保全のため、マツ林の保全活動に取り組む自治体、市民団体等との協働、情報共有等を推進する。 ●江戸時代から続くクロマツ林の植林の取組みを紹介するガイドツアーやボランティアによる植栽、海岸清掃などを通じて市民と協働で白砂青松の景観を保全する。 	「白砂青松海浜公園サミット」の開催	<ul style="list-style-type: none"> ●2022年度（R4年度） 松林の保全活動に取り組む団体等に呼びかけ開催。活動課題や良好事例の情報共有及び今後の活動にフィードバック 	○青少年海の家を主会場に、野外フィールド活動も開催（11月）												
教育施設、環境学習フィールドとして活用	人材育成	●環境教育の指導者を養成する講習会の開催など、人材育成の取組みを推進する。	「環境教育指導者養成講習会」の開催	<ul style="list-style-type: none"> ●2020～2021年度（R2～3年度） 一般募集及び公園関係機関スタッフ対象に開催 ●2022年度（R4年度） 九州JAZA会員の動物園・水族館スタッフ対象に開催 	○九州JAZA会員の動物園・水族館スタッフ対象に開催（3月）												
	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	新たな環境学習プログラムの実施（水辺の生き物観察体験、プロジェクトワイルドin森の池等）	<ul style="list-style-type: none"> ●2020年度（R2年度）～ 新規開園した「森の池」を活用したプログラム提供 ●2020年度（R2年度）～ マリンワールドと連携した保全活動の普及啓発イベント実施 	○森の池の自然を活用したワークショップを開催（8月） ○マリンワールドと連携し「水辺の生き物観察体験」を開催（11月）												
			「森の池市民協働運営協議会」による運営管理のコーディネート	●2020年度（R2年度）～ 協議会参画団体の協力を得た「森の池」の活用プログラムの提供	○協議会参画団体の協力を得た「森の池」の活用プログラムの提供（8月）												
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																	
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 	ビーチラン、ビーチヨガ	●2021年度（R3年度）～ 玄界灘の海岸線を活用したイベントを開催	○玄界灘の海岸線を活用したヨガを開催（7月）												
			サンシャインプールでの水泳教室、水中エクササイズ等プログラムの実施	●2021年度（R3年度）～ 夏季に各プログラムを実施	○地元専門学校と連携し、水泳教室や水中エクササイズを実施												
	癒やし	<ul style="list-style-type: none"> ●玄界灘 海の中道サイクリングプログラム ●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。 	花を愛でながら食事が楽しめる花カフェの設置	●2020年度（R2年度）～ 春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ●テーブルセット等配置し休憩スペースを創出	○志賀島、雁ノ巣、P-PFI事業のレンタサイクル事業者や福岡市、地域の事業者等と連携した「サイクルツーリズム」の展開 ○春・秋季を主に季節売店の営業（花カフェ）周辺にテーブルセット等を配置した休憩スペースを創出												
			ハーモニーとコントラストによる「花の丘」の再デザイン	●春：桜とネモフィラの色彩が織り成す見所づくり ●秋：秋空と紅葉コキアによる花風景の演出	○春：ネモフィラ ○秋：コスモス（コキアは虹・彩の花壇）												
			市民協働による桜並木の創出	●桜の園の魅力向上と老朽化した桜並木の再生を目標に、市民協働で補植を実施	○市民協働で補植を実施（3月）												
	癒やし	<ul style="list-style-type: none"> ●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。 	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		○春・秋季を主に季節売店の営業（花カフェ） ○大芝生広場レストハウス内売店をPlay Caféにリニューアル デッキスペースを新設し、大芝生や花修景を望みながら寛げるスペースを創出												

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道管理センター】※令和4年度取組目標

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																		
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)									
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																								
市民参加の場の充実	市民参加	●市民発案のプログラム、地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムなど、市民が主体的に提供するプログラムを充実する。	市民とともに創り上げるプログラム（パークフィットネス）	●2021年度(R3年度)～地域のインストラクターが講師となりヨガ教室などを開催	○地域インストラクター講師のノルディックウォーク教室（4月・2月）																			
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かした企業研修の場としての公園利用の推進	●2021、2022年度（R3、4年度）に公園を活用した企業研修メニューの開発、試行を実施	○公園を活用した企業研修メニューの開発、試行を実施（6月～）																			
ユニバーサルデザインの考えに基づく整備・管理運営	ユニバーサルデザイン	●ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ●障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを享受できるプログラムや施設の充実を図る。	すべての子どもと一緒に楽しめるインクルーシブ・プレイグラウンドの整備	●2022年度(R4年度)以降、カフェリニューアル後に収益の一部を還元し、大芝生広場レストハウス周辺に遊び場を開設	○遊び場試行（4～5月） ○カフェを活かしたイベント開催（5月・11月） ○障がいのある子どもたちを対象としたワークショップ開催（2月）																			
			大芝生広場レストハウス内売店みんなで創り・育む「インクルーシブ・カフェ」にリニューアル	●2021年度(R3年度) 設計 冬季に改修工事着工 ●2022年度(R4年度) 春季 リニューアルオープン	○大芝生広場レストハウス内売店をPlay Caféにリニューアル 手作りメニューやスイーツの充実 ○デッキスペースを新設し、大芝生や花修景を望みながら寛げるスペースを創出																			
			障がいのある方も安心して楽しめる「動物ふれあい出張プログラム」の実施	●2021年度(R3年度)～ 大芝生広場レストハウス周辺にふれあいコーナーを設置し、動物スタッフが側面支援	○「動物ふれあい出張プログラム」をPlay Café周辺にて実施（春・秋）																			
			動物の森において、障がい者の心身の活性化に役立つケアプログラムを提供	●2020年度(R2年度)～ 青少年海の家利用団体等を対象に開催	○作成した「障がい者ケアプログラム実践集」をもとに海の家利用団体等を対象に実施																			
	園内移動	●公園全体の交通ネットワークの再整理を行った上で、サイクリングコースやバスルートの再編、新たな休憩・交通の拠点の整備など必要な対策を実施する。 ●広い公園をスムーズに、楽しく移動できる新たなモビリティの導入などにより、園内の回遊性を高める。	広い公園を“スムーズに楽しく”移動できるサービス向上（デマンド交通社会実験、パーソナルモビリティ 等）	●2020～2021年度（R2～3年度） パーソナルモビリティ活用の実証実験、及び既存園内交通の課題抽出 ●2022年度(R4年度)～ 既存園内交通に代わるサービス導入	○パーソナルモビリティ「電動キックボード」を活用した、新たな園内移動事業を本格的に運用開始																			

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【マリンワールドPFI（株）】※令和4年度取組目標

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	2022年度進捗	計画スケジュール（年度・予定）																		
大項目	項目	今後の具体的取組み					2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)									
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	●九州UMIアカデミー（9月） ●海の冒険団（10月）																				
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																									
教育施設、環境学習フィールドとして活用	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	環境共生の森での絶滅危惧種の保全、外来種の駆除	●光と風の広場「環境共生の森」のため池を利用し、希少淡水魚ニッポンバラタナゴ域外保全活動を行う。また一般市民が参加できる環境学習の場として定着させる。 2021年度(R3年度) 孵化稚魚のため池放流 2022年度(R4年度) 成長観察 2023年度(R5年度) ため池での自然産卵 ●希少淡水魚の生活環境多様化のため、また環境学習の実践場として「水路」「水田」の整備 ●いこいの森湿地を使用しカスミサンショウウオ域外保全地活動を行う。 2021年度(R3年度) 保全囲い内での自然産卵 2022年度(R4年度) 保全囲いの増設 2023年度(R5年度) 湿地へ放流	●光と風の広場「環境共生の森」 1.ニッポンバラタナゴの増殖 1-1)ヌマガイ移植池での自然産卵 1-2)水族館の孵化仔魚を稚魚育成用の池に放流 2.ヌマガイの増殖 2-1)ヌマガイ移植池での自然繁殖促進 ●水田の整備・維持 ●カスミサンショウウオ保全区画の整備継続（保全区画内での繁殖増殖を維持し、区画外の放流は行わない） 1.いこいの森湿地エリア保全区画の維持整備 2.環境共生の森保全区画の維持整備		孵化稚魚のため池放流 成長観察 移植個体の自然産卵 保全活動の継続・定期的な観察会 水田増設 参加体験型の環境学習場として活用(定期的な観察会の実施) 水路へ生物移植 参加体験型の環境学習場として活用(定期的な観察会の実施) 移植個体の自然産卵 保全囲いの増設 繁殖個体を湿地へ放流 保全活動の継続・定期的な観察会																		
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																									
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心して利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応	●来館者が安全・安心して利用できる施設環境を提供する。	●HP・館内表示による来館者への協力要請。 ●入館者の検温、手指消毒・施設内の換気、消毒。																				
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																									
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	自然保護への理解を深める自然への窓口となる施設運営	●展示水槽・展示生物を通して自然保護への理解を深める。 2021～2023年 (R3～5年) 小笠原シロワニ調査(母島) 2023年度(R5年度) 衛星発信機調査(母島) 海浜公園光と風の広場 アマモ移植 アマモ場の創生 海洋動物の繁殖 ●野外観察会の実施（毎年2回実施） ●学校団体への学習支援	●展示水槽・展示生物を通して自然保護への理解を深める。 1.3F水の森エリア改装(5/9～7/6工事・7/7オープン) 中流域・里山里地に生息する生物・水生昆虫・両生類・爬虫類等を展示し、福岡県陸水環境の展示強化 2.小笠原シロワニ個体識別調査継続 3.海浜公園光と風の広場 アマモ移植・アマモ場創生 4.海洋動物の繁殖(カマイルカ2頭出産予定 5・8月) ●屋外観察会の実施(一般公募型) 1.磯の観察会(志賀島勝馬海岸) 5/15(日)・5/29(日) 2.管理センターとの協働観察会(4回計画) 【学習プログラム】 ・ワークシート、講話等提供		小笠原シロワニ調査(母島) 衛星発信機調査(母島) アマモ移植、アマモ場の創生 海洋動物の繁殖 野外観察会の実施																		
ユニバーサルデザインの考えに基づく整備・管理運営	ユニバーサルデザイン	●ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ●障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを楽しめるプログラムや施設の充実を図る。	ソフト面におけるユニバーサルデザイン推進（スタッフへのコミュニケーション・接遇トレーニング、多言語リーフレット・デジタルサイン設置 等） 特別支援学校等への移動水族館	●スタッフ接遇マニュアル作成、チェック及びトレーニングの継続 ●多言語生物解説の推進 ●毎年2校実施	【接遇】策定した接遇マニュアルに則ったチェック及びトレーニングの継続 【多言語生物解説】リンネレンズの継続 リンネレンズガイド（オリジナル版）での英語以外の多言語化（中国語等）を検討 【移動水族館教室】 ・11月 北九州市立 小池特別支援学校 福岡県立 田主丸特別支援学校																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【（株）海の中道リゾート（ホテル）】※令和3年度フォローアップ

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																			
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)										
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	→ドルフィンセレモニー 実施中																				
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																									
地域活性化	地域活性化	地元と連携し、収穫体験、釣り体験等のアクティビティ、志賀島と連携したサイクルツーリズムなど、公園を起点とした地域観光への誘導を推進する。 地域との連携によるイベントの開催などにより、公園と地域の集客施設等との相互利用を促進する。	地域の施設や地元業者と連携する。（地元陶芸、野菜収穫＆ランチ）	●2021年度（R3年度）春頃から西戸崎の陶芸工房と連携した陶芸教室を開催 ●志賀島の契約農園で野菜等を収穫し、その食材を使ったランチを提供するプランを開始	→2021年5月～→プラン化は行っているが実施無し。 →実施中																				
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																									
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	新たな（健康）レクリエーションの導入（サップネス）	●2021年度(R3年度)春頃からサップネスを実施	→2021年9月～→緊急事態宣言などの関係にて2022年度での計画変更。																				
	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		→各機関と連携し、感染症対策の徹底を図る																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【（株）海の中道リゾート（ホテル）】 ※令和4年度取組目標

: 全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																			
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)										
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	→ドルフィンセレモニー 実施中																				
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																									
地域活性化	地域活性化	地元と連携し、収穫体験、釣り体験等のアクティビティ、志賀島と連携したサイクルツーリズムなど、公園を起点とした地域観光への誘導を推進する。 地域との連携によるイベントの開催などにより、公園と地域の集客施設等との相互利用を促進する。	地域の施設や地元業者と連携する。（地元陶芸、野菜収穫＆ランチ）	●2021年度（R3年度）春頃から西戸崎の陶芸工房と連携した陶芸教室を開催 ●志賀島の契約農園で野菜等を収穫し、その食材を使ったランチを提供するプランを開始	→2021年5月～→プラン化は行っているが実施無し。 →実施中																				
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																									
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	新たな（健康）レクリエーションの導入（サップネス）	●2021年度(R3年度)春頃からサップネスを実施	→2021年9月～→緊急事態宣言・福岡蔓延防止などの関係にて2022年度での秋頃計画変更。																				
	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		→各機関と連携し、感染症対策の徹底を図る																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【（株）海の中道リゾート】※令和3年度フォローアップ

【マリーナ】

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）									
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
						(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園															
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	●弊社の関連団体が主催している『九州UMIアカデミー』の主会場を海の中道マリーナに移し、公園内の施設を利用してアカデミーを開催していく予定とされていたが新型コロナウイルスの影響により今年度は開催中止とした。										
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	海の魅力の発揮	●穏やかな海に面した砂浜が広がるB地区未供用区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。 ●博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、カヤック、ホースライディング等）。	一般に開かれたマリーナ運営（クルーズ体験、ヨット教室、公園利用者にも利用しやすく）	●2022年度（R4年度）からヨット教室を開催（R3準備） ●公園利用者も利用しやすいように広報の連携を強化	●福岡県セーリング連盟に来年度以降の取組への協力を依頼した。 ●ダイビングショップトリトンと連携し、次年度以降のマリンスポーツメニューを拡大した。										
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園															
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		●施設内の消毒（特に人の手が触れる箇所） ●施設内の換気 ●消毒の設置 ●ポスター等での注意喚起										
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園															
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	ブルーシーフード教室、ディンギーヨット教室の開催	●ブルーシーフード教室、ディンギーヨット教室をR3年度に準備、R4年度から開催。	●ブルーシーフード教室について、漁協やレストランとの打ち合わせを行なっている。 ●ディンギーヨット教室について、小戸サンライズクラブ（ヨット活動を行う任意団体）との協議を開始するしたもの、ディンギーヨット教室を開催するにはハードルが高い可能性があるとの指摘を受けており、引き続き協議を行う。										

【テニス】

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																			
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)										
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	●園内施設の利用者に対する割引を検討していく。																				
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																									
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	幅広い年齢層を対象としたスクールや大会の開催、健康クリニック付き高齢者テニス	●幅広い年齢層を対象としたスクールや大会を継続的に開催。 ●2021年度(R3年度)に健康クリニック付高齢者テニスをイベントとして開催	●9月中旬にシニアを対象としたテニスイベントを予定していたが、緊急事態宣言下での開催を避けるため見合わせている。																				
	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		●施設内の消毒（特に人の手が触れる箇所） ●施設内の換気 ●消毒の設置 ●ポスター等での注意喚起 ●ログハウスに音響やモニターを設置し、憩いの場として利用者へ開放している。また空調も増設し、環境を整えた。																				
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																									
ユニバーサルデザインの考案に基づく整備・管理運営	ユニバーサルデザイン	●ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ●障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを享受できるプログラムや施設の充実を図る。	障がい者がテニスを楽しめるコート整備	●車いすでも利用できるハードコートまでの動線を障害者でも利用しやすいように整備し、障がい者テニス大会を2022年度（R4年度）に誘致できるよう準備を進める。	●飯塚車椅子テニス大会の視察を行う予定だったが、コロナ禍で大会自体が中止となった。同じような大会があれば視察を行う予定。 ●車いすテニスの大谷桃子プロのコーチに連絡しており、7月頃に実際に大谷プロにハードコートを使用していただく予定だったが、オリンピック開催による多忙のため、延期になっている。																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【（株）海の中道リゾート】※令和4年度取組目標

【マリーナ】

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																			
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)										
将来像1：「オールみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●ホテル利用者やP-PFIに来園された方々にマリンスポーツを提供できるよう連携する ●園内機関との新しい連携を作る	●レイガンス様、海の中道パーク・ツーリズム共同事業体様への情報共有を行っている。																				
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	海の魅力の発揮	●穏やかな海に面した砂浜が広がるB地区未供用区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。 ●博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、カヤック、ホースライディング等）。	一般に開かれたマリーナ運営（クルーズ体験、ヨット教室、公園利用者にも利用しやすく）	●今年度よりマリンフィットネスの提供を行う（ビーチヨガ等） ●今年度より新しいマリンスポーツメニューの提供を行う（水上オートバイ体験、ビスクケット体験、釣り体験、ダイビング体験） ●公園利用者も利用しやすいように広報の連携を強化	●マリンフィットネスの運用開始（6月より） ●マリンスポーツメニューの充実と運用開始（4月より順次）																				
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																									
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応	●感染予防対策の徹底	●施設内の消毒（特に人の手が触れる箇所） ●施設内の換気 ●消毒の設置 ●ポスター等での注意喚起																				
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																									
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	ブルーシーフード教室、ディンギーヨット教室の開催	●ブルーシーフード教室、ヨット教室を開催。	●関係者との協議継続																				

【テニス】

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																			
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)										
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	●園内施設の利用者に対する割引を検討していく。																				
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																									
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	幅広い年齢層を対象としたスクールや大会の開催、健康クリニック付き高齢者テニス	●幅広い年齢層を対象としたスクールや大会を継続的に開催 ●2022年度(R4年度)に健康クリニック付高齢者テニスをイベントとして開催（コロナ感染拡大防止の観点から一年延期している）	●9月中旬にシニアを対象としたテニスイベントを予定している。																				
	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応	●感染予防対策の徹底	●施設内の消毒（特に人の手が触れる箇所） ●施設内の換気 ●消毒の設置 ●ポスター等での注意喚起 ●ログハウスに音響やモニターを設置し、憩いの場として利用者に開放している。また空調も増設し、環境を整えた。																				
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																									
ユニバーサルデザインの考案に基づく整備・管理運営	ユニバーサルデザイン	●ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ●障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを享受できるプログラムや施設の充実を図る。	障がい者がテニスを楽しめるコート整備	●車いすでも利用できるハードコートまでの動線を障害者でも利用しやすいように整備し、障がい者テニス大会を2023年度（R5年度）に誘致できるよう準備を進める（コロナ感染拡大防止の観点から一年延期している）	●飯塚の車椅子テニス大会の視察を予定している。 ●車いすテニスの大谷桃子プロのコーチに連絡しており、施設の動画等を見てもらう等、引続き大会開催に向けた協議を行う。																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【青少年海の家】※令和3年度フォローアップ

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）									
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
						(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)
将来像1：「オールらみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園															
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（それいけ海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実 ●新たな機関との連携開発 ●SNS（FB・Instagram）を活用した広報促進	●公園主催イベント アウトドアパークのキャンプ体験の計画（コロナにより中止） ●らみなかたびサイト活用 ●マリーナとの新たな連携企画 カヌー・BBQ・クルージング体験										
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園															
教育施設、環境学習フィールドとして活用	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	自然観察活動（動植物観察、貝殻採取、ビーチクリーンアップ、天体観察 等）	●既存の活動プログラムの見直し・リニューアルを図る ●自然教室や主催事業における環境学習の推進	●環境局との連携によるラプアースクリーン活動やSDG s 取組の推進 ●「環境学習プログラム」への参加 環境局との連携による環境教育の促進										
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園															
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応。	●感染症対策の見直し ●魅力向上アイデアの申請促進及び実現化	●感染症対策の見直しと徹底 マニュアル作成 HPへの掲載 ●流木アートや漂流ゴミを活用したジャンクアートの制作。施設の充実につながる 11月上旬「森の美術館」への出展 ●パークテレーリング・ウォークラリー等実施コースの再確認 健康増進プログラム										
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園															
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	野外活動機会の積極提供 様々な機会を通して、子どもたちの教育に関わる。	●他の機関とのコラボレーションによる、活動プログラムの実施や出張やブース出展などの提供機会を充実	●「夢授業」への参加 小中学校におけるキャリア教育の提供 小学校4校・中学校5校 計9校 ●企業向け利用促進チラシの作成 新人社員研修などでの活用 ●出張自然教室の対応 小学校 2校										

○ 4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【青少年海の家】※令和4年度取組目標

: 全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	計画スケジュール（年度・予定）											
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)		
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																	
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（それいけ海の冒険団、カッター教室 等）	●公園機関との連携促進 Park-PFI・ルイガンズ ●SNS（FB・Instagram）を活用した広報促進 動画の活用・フォロワー数の増加 ●ニュースリリースの積極発信	●公園機関との連携促進 Park-PFI 面談 ●SNS（FB・Instagram）を活用した広報促進 動画のアップ・フォロワー数の増加 フォロワー数 FB455 インスタ205												
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																	
教育施設、環境学習ワールドとして活用	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	自然観察活動（動植物観察、貝殻採取、ビーチクリーンアップ、天体観察 等）	●新規主催事業の実施 カヌー・カヤック教室の実施 ●連携主催事業における環境学習の推進 地引網体験の実施 ●行政・団体と連携した取り組み ラブアースクリーンアップ	●新規主催事業の実施 カヌー・カヤック教室の実施計画 ●連携主催事業における環境学習の推進 地引網体験 マリンワールドとの連携 ●行政・団体と連携した取り組み ラブアースクリーンアップ 6/12実施予定												
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																	
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応。	●感染症対策の継続 利用者・職員の安全を守る ●海の家魅力向上プロジェクト推進 職員のアイデアをカタチに ●あたりまえの実践 挨拶・試され・臨機応変・マナー・縁	●感染症対策の継続 利用者・職員の安全を守る ●海の家魅力向上プロジェクト推進 職員のアイデアをカタチに ●あたりまえの実践 キックオフにて職員へ共有												
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																	
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	野外活動機会の積極提供 様々な機会を通して、子どもたちの教育に関わる。	●他の機関との連携による活動促進 活動プログラム、出張自然教室・ブース 出展・夢授業など地域や団体と連携したプログラムを提供	●他の機関との連携による活動促進 ふくおかFUNから水中写真を寄贈 夢授業 7/8 福岡市立青葉中学校												

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道パーク・ツーリズム共同事業体】※令和3年度フォローアップ

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）									
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
						(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園															
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	・管理センターと連携したマルシェイベントを5月開催に向けて調整中										
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	多様なニーズへの対応	●既にファミリー層の利用者が多いC地区はその魅力をより強化、Park-PFI事業が開始されるB地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供する。 ●日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がり」のエンタランス」として海の中道公園をより活用する。	Park-PFI事業の開始、運営（球体テント、立体アスレチック施設の整備）	●2022年（令和4年）3月グランドオープン	・2022年3月15日グランドオープン（宿泊、レストラン、立体アスレチック、各アクティビティ）										
	海の魅力の発揮	●穏やかな海に面した砂浜が広がるB地区未供用区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。 ●博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、カヤック等）	博多湾、玄界灘海浜部でのアクティビティ導入（SUP、カヤック、ホースライディング等）	●新たなアクティビティの導入でこれまで利用の少なかった園内海浜部を活用し、公園の魅力向上に寄与する。	・3/15～ホースライディングの受付を開始 ・3/15～ヨガ、ピラティス、ボクササイズなどの陸上プログラムの受付を開始 ・SUP、カヤックを実施するための各関係者との調整を実施										
	食の魅力の充実	●地産地消、食育などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。	地域と連携したマルシェ等のイベントの開催 収穫体験や食育、地産地消等の要素を加えた新たな体験型アクティビティとしてのBBQサービス提供	●定期的な地域イベントを開催することで海中地域の魅力を発信する。 ●周辺地域と連携し、地場産品を利用した飲食・体験価値を提供する。	・5月開催で地元の事業者と詳細を協議中 ・5月下旬に地場産品を利用したBBQ施設をオープン予定で調整中										
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園															
教育施設、環境学習フィールドとして活用	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	共生の森・森の池での自然観察	観察プログラムを通じ、海中地域や海浜公園特有の自然環境への理解を深める。	・管理センターの市民交流係と連携しながら自然観察プログラムの開催を検討中										
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園															
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	パノラマ広場でのヨガ等健康アクティビティの実施	●通常と異なる環境下での活動によりモチベーション維持し、継続的な運動を促す。	・3/15～博多湾をバックに楽しめるビーチヨガ、ピラティス、ボクササイズの受付開始										
	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	レストラン&カフェ・バーの整備	●2022年（令和4年）3月グランドオープン	・2022年3月15日グランドオープン カフェ：11：00～17：00 ディナー：18:00～（宿泊者限定）										

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道パーク・ツーリズム共同事業体】※令和3年度フォローアップ

: 全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）									
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
						(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	癒やし	<ul style="list-style-type: none"> ●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。 	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		・感染症対策の検討、ランドスケープの検討・施工を実施中										
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園															
市民参加の場の充実	市民参加	<ul style="list-style-type: none"> ●市民発案のプログラム、地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムなど、市民が主体的に提供するプログラムを充実する。 	地元講師を招いたワークショップやイベントの企画、地域住民企画のイベント等受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民や地元団体の活動や発表の場、機会を創出し、公園利用を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西戸崎在住のインストラクターによるヨガ体験の実施 ・志賀島で活躍する画家の先生を招き、お絵かき教室等のワークショップの実施を調整中 										
学びの場	学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。 	遊びながら学べるアクティビティの導入（アクティブラーニングを意識したプログラム開発他）	<ul style="list-style-type: none"> ●アスレチックタワーの整備 ●段階的なプログラムの企画開発、実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年3月15日アスレチックタワーグランドオープン ・新たなアクティビティとしてWAKEPARKの実施を協力会社と調整中 										

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道パーク・ツーリズム共同事業体】※令和4年度取組目標

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																			
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)										
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●管理センターをはじめとした各関係機関と連携したイベントの実施	5/21、22に管理センターと両主催によるマルシェイベントの実施（NEW WEEKEND INN THE PARK）																				
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	多様なニーズへの対応	●既にファミリー層の利用者が多いC地区はその魅力をより強化、Park-PFI事業が開始されるB地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供する。 ●日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がり」のエンタランス」として海の中道公園をより活用する。	Park-PFI事業の開始、運営（球体テント、立体アスレチック施設の整備）	●事業者、関係機関と連携した宿泊パック等の充実（宿泊+アスレチック、宿泊+各アクティビティ、宿泊+自然観察体験等）	事業者、関係機関と連携した宿泊パック等の充実（宿泊+アスレチック、宿泊+各アクティビティ、宿泊+自然観察体験等）																				
	海の魅力の発揮	●穏やかな海に面した砂浜が広がるB地区未供用区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。 ●博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、	博多湾、玄界灘海浜部でのアクティビティ導入（SUP、カヤック、ホースライディング等）	●海浜部を活用したSUP、カヤックを実施し公園の魅力向上に寄与する。	4/6～博多湾を活用したSUP、カヤック、クルージング等、海のプログラムの受付を開始																				
	食の魅力の充実	●地産地消、食育などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。	地域と連携したマルシェ等のイベントの開催 収穫体験や食育、地産地消等の要素を加えた新たな体験型アクティビティとしてのBBQサービス提供	●定期的な地域イベントを開催することで海中地域の魅力を発信する。 ●周辺地域と連携し、地場産品を利用した飲食・体験価値を提供する。	5/21、22に管理センターと両主催によるマルシェイベントの実施（NEW WEEKEND INN THE PARK） 5月下旬よりBBQサービスの受付を開始																				
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																									
教育施設、環境学習フィールドとして活用	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	共生の森・森の池での自然観察	●観察プログラムを通じ、海中地域や海浜公園特有の自然環境への理解を深める。	管理センター、マリンワールドと連携した観察プログラムの実施																				
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																									
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	パノラマ広場でのヨガ等健康アクティビティの実施	●通常と異なる環境下での活動によりモチベーション維持し、継続的な運動を促す。	4/1～ヨガ、ピラティス、ボクササイズの受付開始																				
	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	レストラン&カフェ・バーの整備	●レストランの飲食メニュー充実	季節ごとに変わる食材を使ったレストランの飲食メニュー充実																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道パーク・ツーリズム共同事業体】※令和4年度取組目標

: 全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	計画スケジュール（年度・予定）													
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)				
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	癒やし	<ul style="list-style-type: none"> ●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。 	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		・感染症対策の検討、ランドスケープの検討・施工を実施中														
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																			
市民参加の場の充実	市民参加	<ul style="list-style-type: none"> ●市民発案のプログラム、地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムなど、市民が主体的に提供するプログラムを充実する。 	地元講師を招いたワークショップやイベントの企画、地域住民企画のイベント等受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民や地元団体の活動や発表の場、機会を創出し、公園利用を促進する。 	志賀島の神社と連携した座禅体験の実施。西戸崎のインストラクターによるヨガ体験の実施														
学びの場	学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。 	遊びながら学べるアクティビティの導入（アクティブラーニングを意識したプログラム開発他）	<ul style="list-style-type: none"> ●新たなアクティビティ「WAKEPARK」の整備 ●段階的なプログラムの企画開発、実施 	新たなアクティビティ「WAKEPARK」の整備に向けての水質調査の実施														

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【国土交通省】※令和3年度フォローアップ

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																			
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)										
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●本公園の将来像の実現に向けて「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」で各主体の連携を強化し、継続的なフォローアップを行う。	関係主体の協議の場として「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」を運営	●協議会を年2回開催するとともに、フォローアップのための園内関係機関の会議を月1回開催	・年2回開催（6月、11月） ・園内関係機関の会議は概ね月1回開催（緊急事態宣言中は未開催）																				
	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	公園内の各機関の企画・広報担当者をメンバーとする「利用促進・サービス向上部会」で具体的な連携の調整等を実施中																				
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	多様なニーズへの対応	●既にファミリー層の利用者が多いC地区はその魅力をより強化、Park-PFI事業が開始されるB地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供する。 ●日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がりのエントランス」として海の中道駅口をリニューアルする。	多様なニーズの受け皿となるよう園内全体のゾーニングの再整理（ファミリー層向けエリア、大人向けエリア、歩行者空間 等）	●2021年度（R3年度）にゾーニングを再整理し、そのゾーニングに基づき計画的に整備	将来像の各エリアの特性に応じた整備計画を検討完了																				
			日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がりのエントランス」として海の中道駅口をリニューアル 施設の老朽化、陳腐化等を踏まえた遊具の適切な更新と魅力向上	●2021年度（R3年度）から検討、設計に着手し、2023年度（R5年度）までに再整備完了	R3年度中に設計を行い、R4年度から整備予定																				
	海の魅力の発揮	●穏やかな海に面した砂浜が広がるB地区未供用区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。 ●博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、カヤック、ホースライディング等）。	B地区未供用区域の整備（親水空間としての活用）	●2021年度（R3年度）～2025年度（R7年度）：B地区の動植物等の環境調査、計画、設計 ●2026年度（R8年度）以降整備着手、2030年度（R12年度）頃供用	B地区未供用区域の環境調査を実施中（秋・冬・春季完了）																				
				●2021年度（R3年度）：ちびっこ広場の遊具更新 ●2022年度（R4年度）：ユニバーサルデザイン遊具の更新	・ちびっこ広場の遊具をR3年度更新完了 ・R4年度にユニバーサルデザイン遊具更新予定																				
食の魅力の充実	●地産地消、食育などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。	園内施設の集約再編にあわせた新たな飲食施設の整備	●2024～2025年度（R6～R7年度）に園内のレストハウス等を集約再編し、新たな飲食施設を整備	・施設の集約再編に向けた基本設計完了 ・整備に向けた地質調査等予定																					
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																									
海の中道固有の白砂青松の景観の保全、再生	マツ林育成	●玄界灘側のD地区未供用区域のマツの植栽等を推進する。 ●樹幹注入等の松くい虫対策や植林箇所の密度管理等、マツ林の育成保全の取組を継続して実施する。	D地区の未供用区域の整備	●2030年度（R12年度）頃に供用できるよう、継続的にマツの植栽等を実施	D地区未供用区域のマツ植林に向けた造成を実施中																				
			園内の松林を保全・育成するための樹幹注入や薬剤散布等の松くい虫対策、間伐	●園内全域で健全なマツ林を維持・継承	樹幹注入や薬剤散布等の松くい虫対策を継続的に実施中																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【国土交通省】※令和4年度取組目標

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2022年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																			
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)										
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●本公園の将来像の実現に向けて「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」で各主体の連携を強化し、継続的なフォローアップを行う。	関係主体の協議の場として「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」を運営	●協議会を年2回開催するとともに、フォローアップのための園内関係機関の会議を月1回開催	・年2回開催（5/27、11月） ・園内関係機関の会議は概ね月1回開催																				
	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	公園内の各機関の企画・広報担当者をメンバーとする「利用促進・サービス向上部会」で具体的な連携の調整等を実施																				
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	多様なニーズへの対応	●既にファミリー層の利用者が多いC地区はその魅力をより強化、Park-PFI事業が開始されるB地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供する。 ●日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がりのエントランス」として海の中道駅口をリニューアルする。	多様なニーズの受け皿となるよう園内全体のゾーニングの再整理（ファミリー層向けエリア、大人向けエリア、歩行者空間 等）	●2021年度（R3年度）にゾーニングを再整理し、そのゾーニングに基づき計画的に整備																					
			日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がりのエントランス」として海の中道駅口をリニューアル 施設の老朽化、陳腐化等を踏まえた遊具の適切な更新と魅力向上	●2021年度（R3年度）から検討、設計に着手し、2023年度（R5年度）までに再整備完了 ●2021年度（R3年度）：ちびっこ広場の遊具更新 ●2022年度（R4年度）：ユニバーサルデザイン遊具の更新	R4年度中に仮設の入園ゲートを整備し、海の中道駅口のリニューアルに向けた整備を推進 R4年度中に動物をイメージしたユニバーサルデザイン遊具を整備し、周辺にも小型遊具を整備し、魅力向上を推進																				
	海の魅力の発揮	●穏やかな海に面した砂浜が広がるB地区未供用区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。 ●博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、カヤック、ホースライディング等）。	B地区未供用区域の整備（親水空間としての活用）	●2021年度（R3年度）～2025年度（R7年度）：B地区の動植物等の環境調査、計画、設計 ●2026年度（R8年度）以降整備着手、2030年度（R12年度）頃供用	B地区未供用区域の環境調査を実施中（夏季）																				
	食の魅力の充実	●地産地消、食育などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。	園内施設の集約再編にあわせた新たな飲食施設の整備	●2024～2025年度（R6～R7年度）に園内のレストハウス等を集約再編し、新たな飲食施設を整備	整備に向けた地質調査等実施																				
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																									
海の中道固有の白砂青松の景観の保全、再生	マツ林育成	●玄界灘側のD地区未供用区域のマツの植栽等を推進する。 ●樹幹注入等の松くい虫対策や植林箇所の密度管理等、マツ林の育成保全の取組を継続して実施する。	D地区の未供用区域の整備	●2030年度（R12年度）頃に供用できるよう、継続的にマツの植栽等を実施	D地区未供用区域のマツ植林に向けた造成を実施																				
			園内の松林を保全・育成するための樹幹注入や薬剤散布等の松くい虫対策、間伐	●園内全域で健全なマツ林を維持・継承	樹幹注入や薬剤散布等の松くい虫対策を継続的に実施																				

弊社取り組みについて

UBSNA Inc.

2022.05.27

ウブスナ

UBSNAは「冒険の機会」 をつくる会社です

UBSNAは、福岡市東区志賀島を拠点に

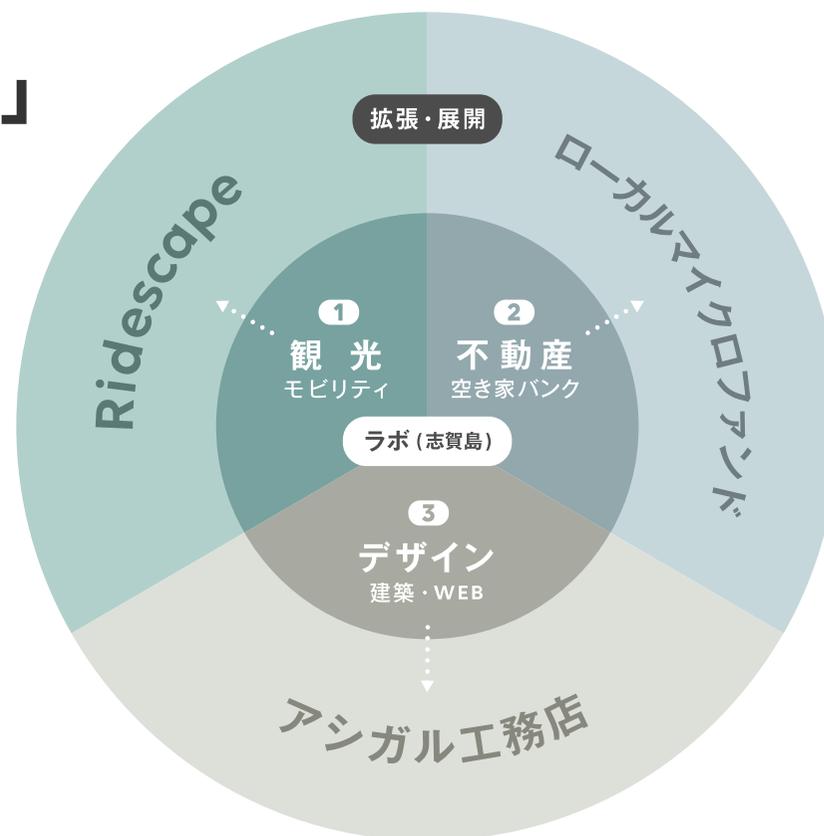
1. 観光

2. 不動産

3. デザイン

の、3つの事業に取り組んでいます。

志賀島を実践・検証の場「ラボ」として捉え、
そのアイデアやノウハウを拡張(サービス化)し、
全国に展開していきます。



基本情報

社名 **UBSNA Inc.** 株式会社ウブスナ

所在地 〒811-0323 福岡市東区志賀島 417-1

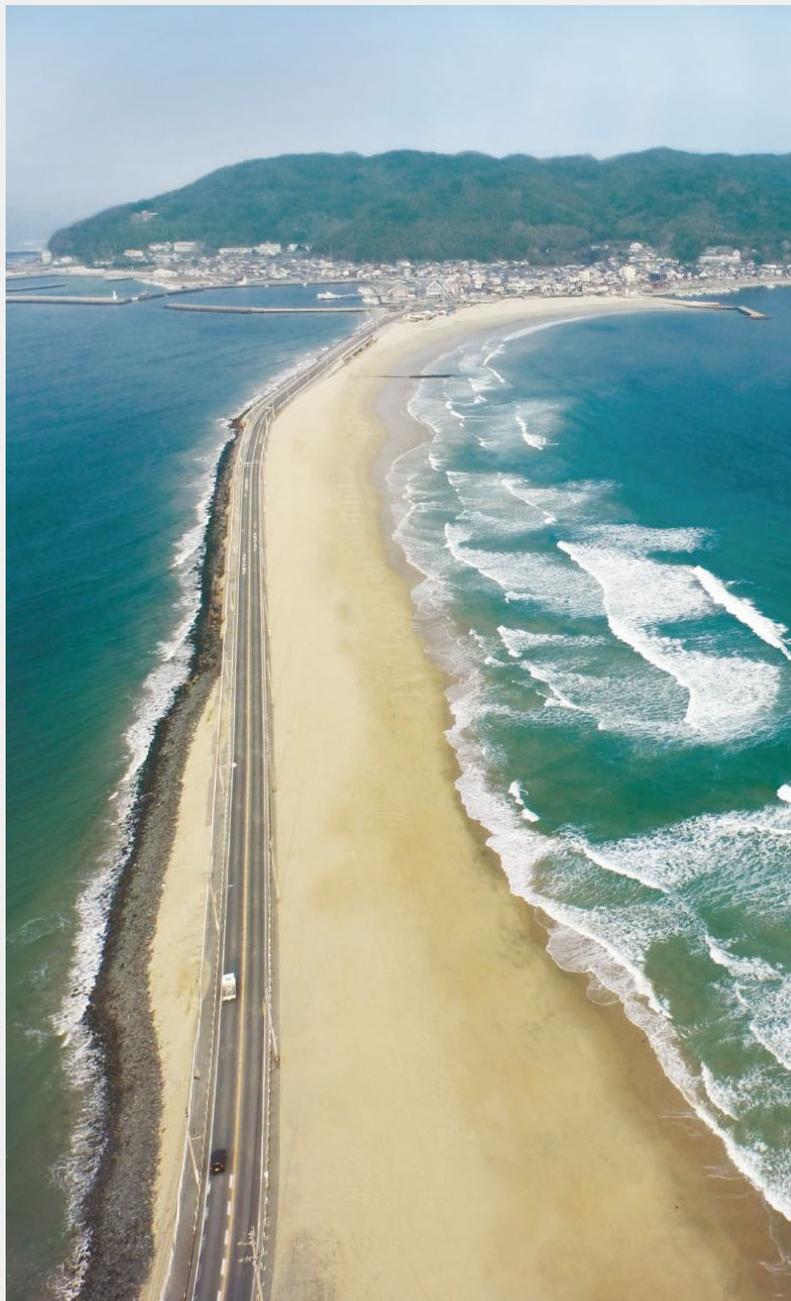
設立 2017年 10月

URL <http://ubsna.jp>

電話番号 (092)410-0809

代表取締役 山崎 基康

志賀島について



福岡市東部の陸繋ぎ島

志賀島

基本情報

- 人口 1700人
- 主要産業は漁業、農業、観光

アクセス

- 市営渡船
- バス
- 車
- 自転車

特徴

- 金印が見つかった島
- 1周が約10km
- 島まで続く海に挟まれた道

魅力

- 島の海岸線を走る周回道路
- 両サイドを海に挟まれた1本道
- 古くからの漁村の街並み



事業紹介



レンタサイクル&カフェ



- 2014年10月オープン
- Bianchi等のスポーツバイクを貸出
- 島では46年ぶりの新規店舗

主な機能 レンタサイクル、カフェ、物販スペース、ワークスペース

所在地 福岡市東区志賀島

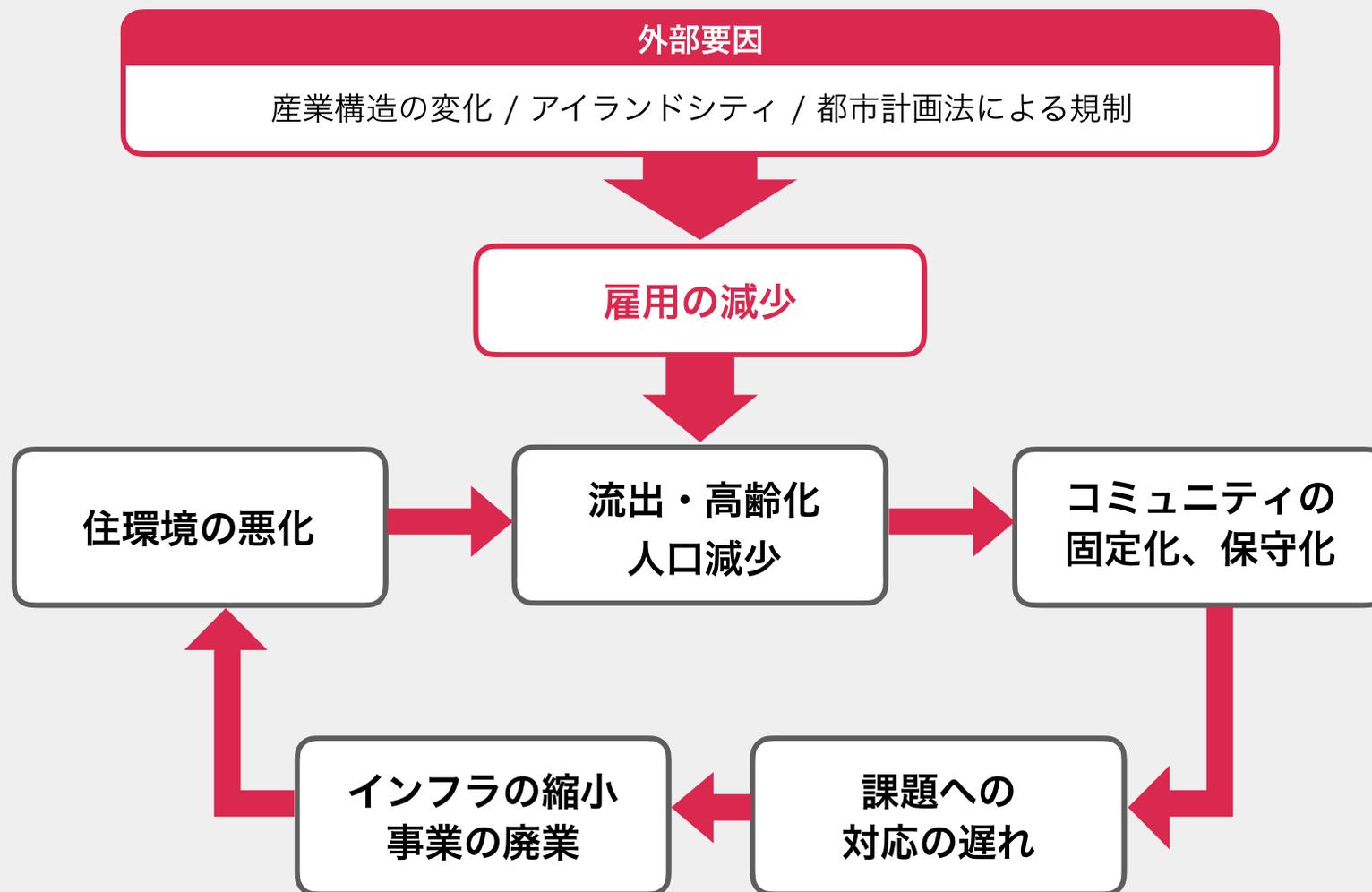
面積 112.4㎡

構造 木造2階

その他 カフェ30席/ワークスペース10席

自転車の種類 クロスバイク、MTB、ミニベロ、ロードバイク、タンDEM

地域で起こっていた負のスパイラル



5つの観光課題

1 二次交通の脆弱性→バスの本数

2 滞在時間の短さ→車だと10分足らずで滞在

3 新たな旅行ニーズへの対応→マス型

4 エリアプロモーション(情報発信)

5 サインや道路などの走行環境

サイクルツーリズムについて



点から線、線から面に。



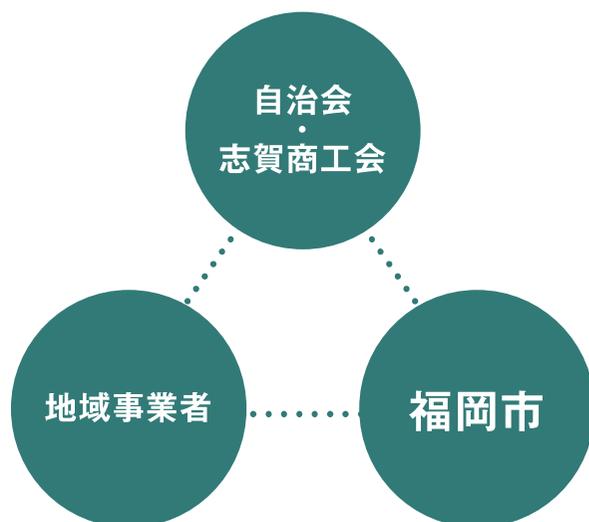
サイクルツーリズムについて



志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会

行政、事業者、地域団体と協働してエリアマネジメント
エリア内外の事業者・地域団体・行政とのパートナーシップのもと、
サイクルフレンドリーな地域づくりに取り組む団体。
点であるシカシマサイクルを面的に展開するため立ち上げと運営を行う。

組織構成



取り組み

- 1 自転車利用促進事業
- 2 広 報
- 3 イベント・大会誘致
- 4 調査・提言
- 5 地域貢献活動

サイクルツーリズムについて

1 自転車利用促進事業

Utilization promotion



サイクルツーリズムについて

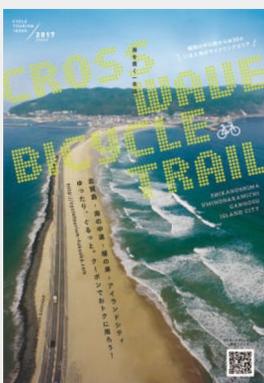
2 広報 Public relations



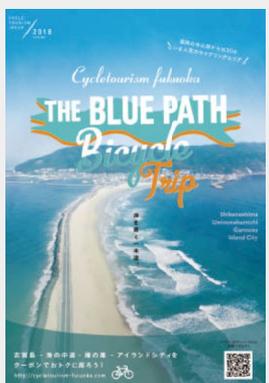
2015



2016



2017



2018



2019~2022



WEB

サイクルツーリズムについて

3 イベント・大会誘致 Attraction

- トライアルシカシマライド
- アウトドアパーク
- Bicycle & Seafood
- 福岡トライアスロン2017
- 福岡トライアスロン2020
- 福岡トライアスロン2022



サイクルツーリズムについて

4 調査・提言 Investigation

調査

- 自転車交通量調査
- アンケート

成果

- サイン設置
- ガードレール・ブルーレーン新設
- 堆積した砂の撤去

サイクリスタ向けアンケート調査票

調査の目的
志賀島に「第10回」で、海浜周辺の「げんしん」景色を楽しむことができる福岡市内でも有数のサイクリングコースとなっており、このアンケート調査は、志賀島～海ノ中道エリアの走行環境改善のために、皆さまのコメントを収集することを目的に実施しています。

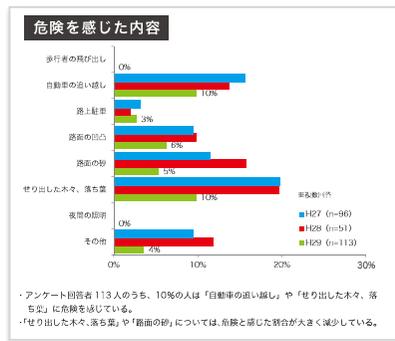
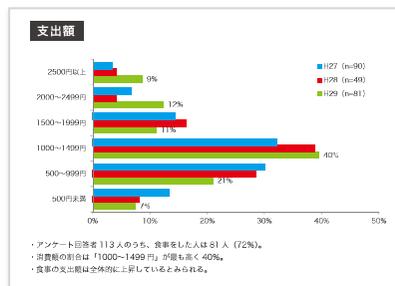
調査実施主体
志賀島～海ノ中道エリア観光協会（担当：山崎 TEL: 092-3459-2956 FAX: 092-910-0690）

問1：志賀島～海ノ中道エリアでのサイクリングについて、それぞれお答えください。

① 頻度・回数	年回約 1回	→ うち春 回、夏 回、秋 回、冬 回		
② 人数	ア.1人	イ.2人	ウ.3～5人程度のグループ	エ.5人を超えるグループ
③ 滞在時間 ※1つに○	ア.1時間未満	ウ.2～3時間程度	エ.5時間以上	
	イ.1時間程度	エ.4～5時間程度		
④ 支出額 (志賀島～海ノ中道エリアでしたとして、その他の支出額はあてはまるものすべてに○)	1.食事 → 支出 円/人	2.休息 → 支出 円/人	3.宿泊 → 支出 円/人	4.その他(具体的に) → 支出 円/人
⑤ 立ち寄り場所 ※あてはまるものすべてに○	志賀島 エリア	1.海の中道海浜公園 2.マリンドームの中道 3.高戸崎神社	4.飲食店(店名) 5.その他(具体的に)	
		6.観光地 7.その他(具体的に)		

問2：サイクリスタ向けに必要なサービス、設備、施設は何ですか(あてはまるものすべてに○)

1.自転車スタンド・空気入れ(店舗や事務所で)	7.屋外に自転車を持ち込める宿泊施設
2.修理工具の利用やメンテナンスができるスペース	8.公共交通機関との連携(付添いワゴン)
3.自転車道の案内や標識(サイン、地面表示など)	9.自転車専用レーン
4.飲食店やお土産などの情報	10.フーリングイベント
5.清潔なトイレ	11.その他(具体的に)
6.入浴やシャワーを利用できる施設	



サイクルツーリズムについて

5 地域貢献活動

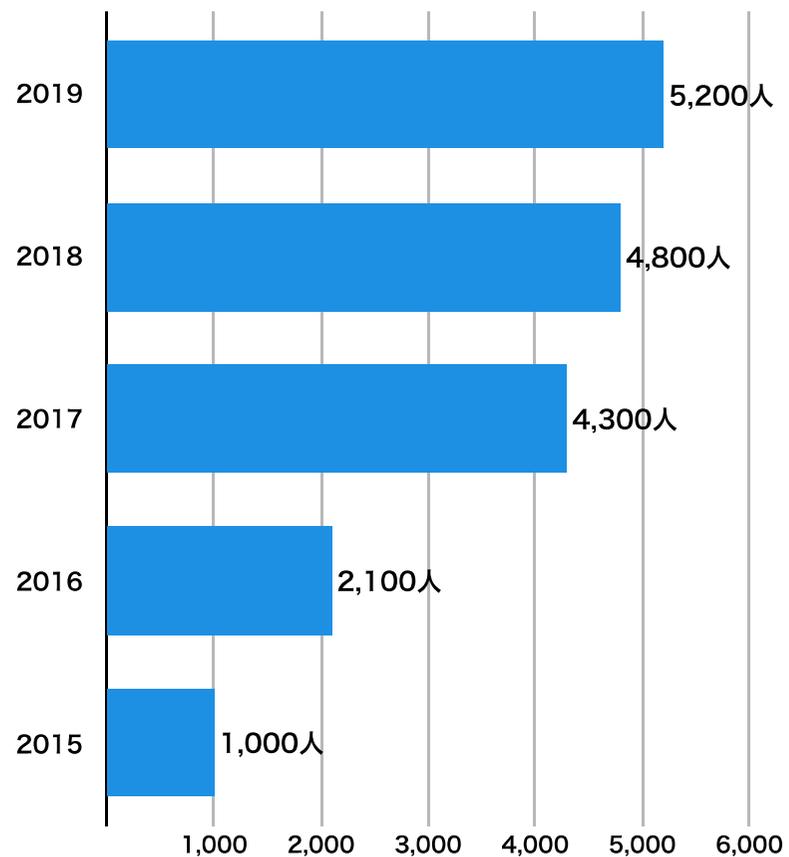
One bike for Local Good



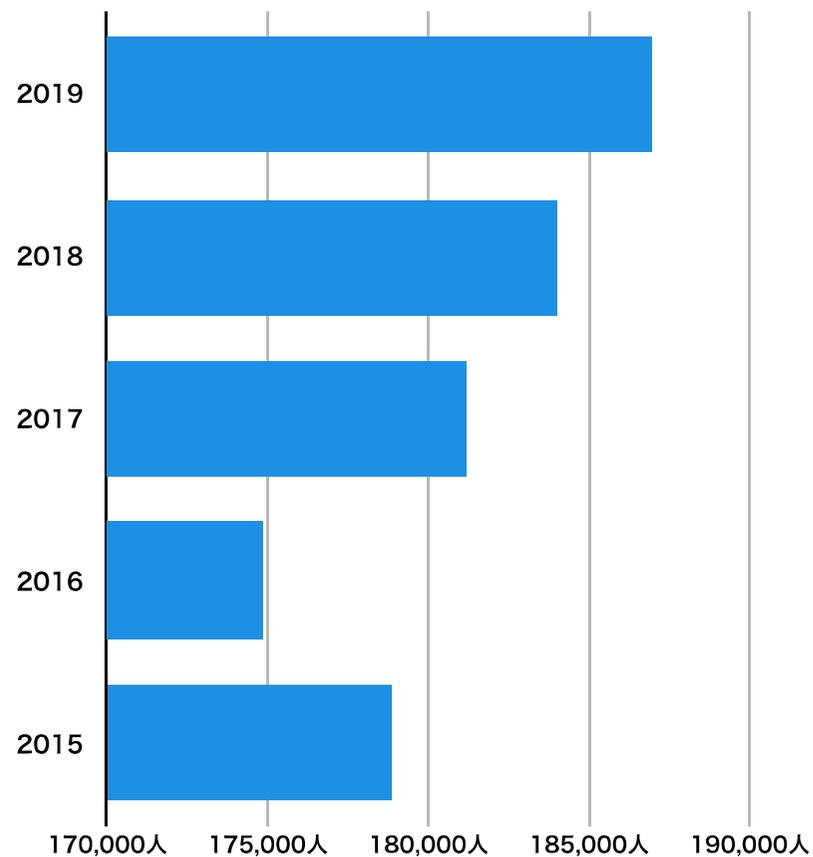
- サイクルエイド
- 清掃活動
- シェア・ザ・ロード



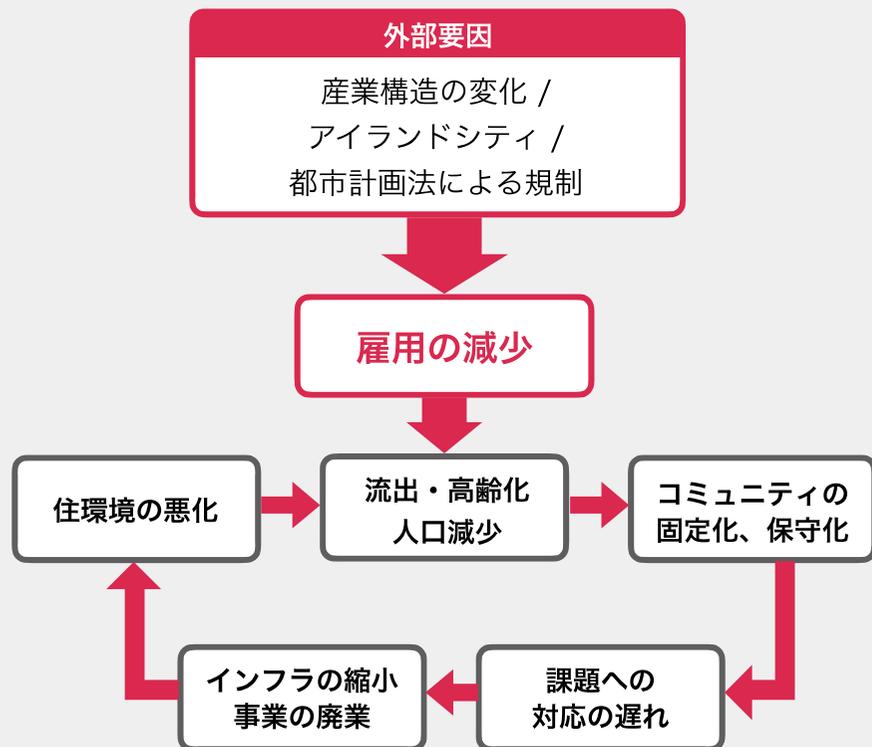
レンタサイクル利用者の増加



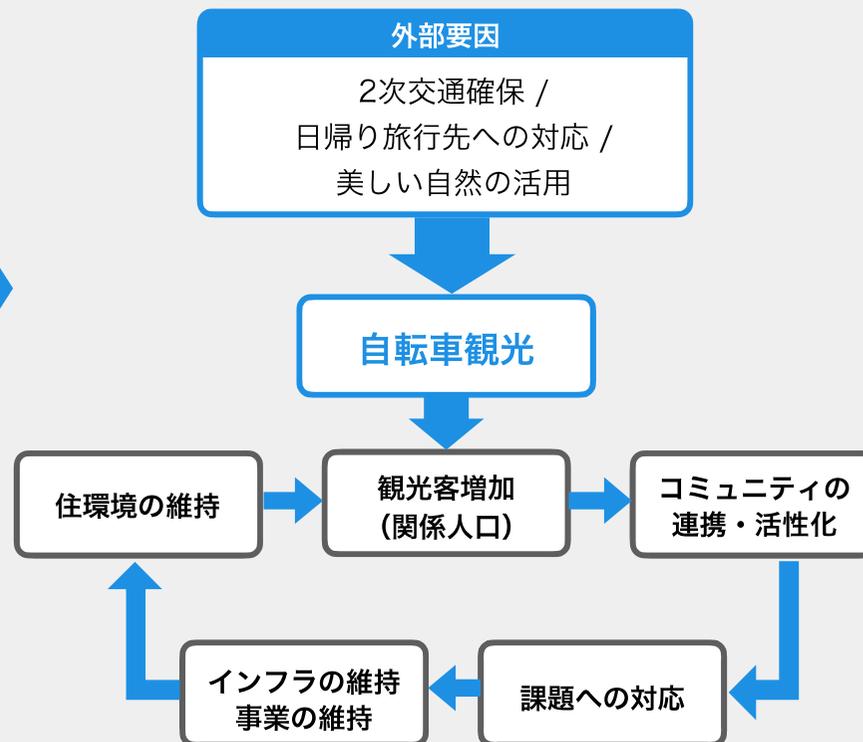
市営渡船(1次交通)の利用者の増加



地域で起こっていた 負のスパイラルが



正のスパイラルへ



自転車観光が地域にもたらす効用

1 滞在時間を伸ばす

2 二次交通を補完する送客ツールになる

3 体験型コンテンツ提供により
新たな旅行ニーズへ対応できる

POTANIC (ポタニック志賀島)

ポタニック 志賀島

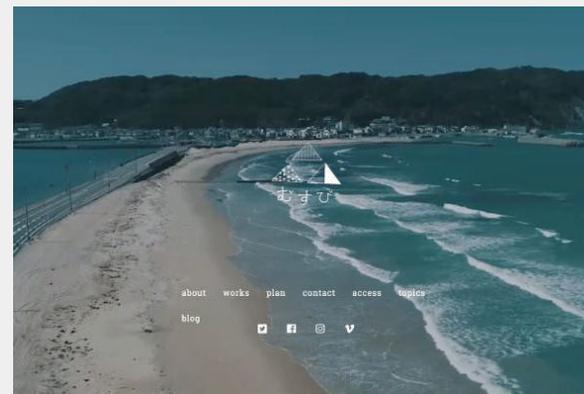
📍 POTANIC SHIKANOSHIMA



空き家バンク みちきり

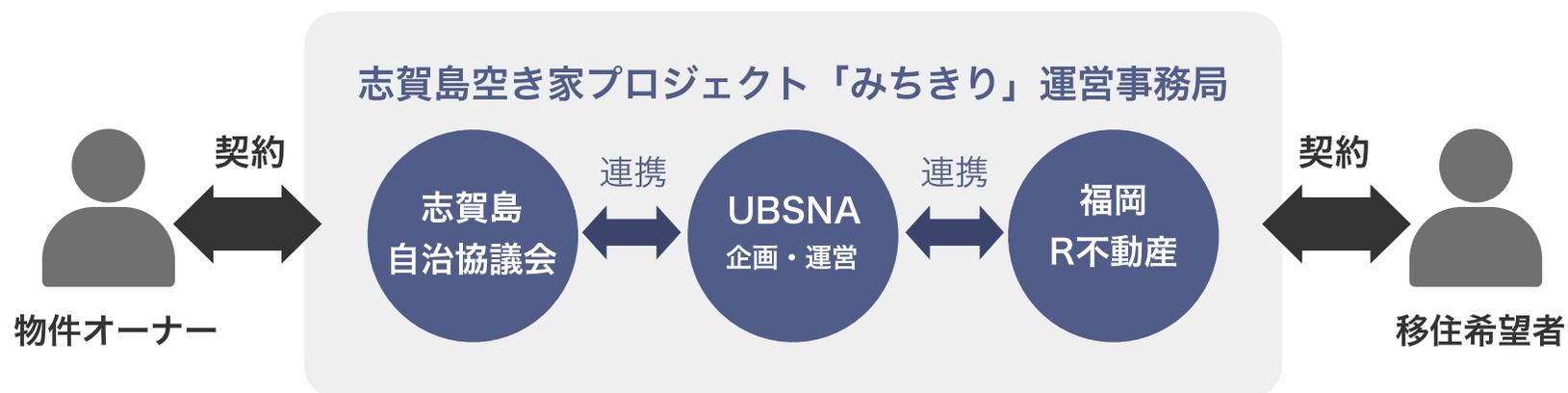


MEGANE CURRY (2016)



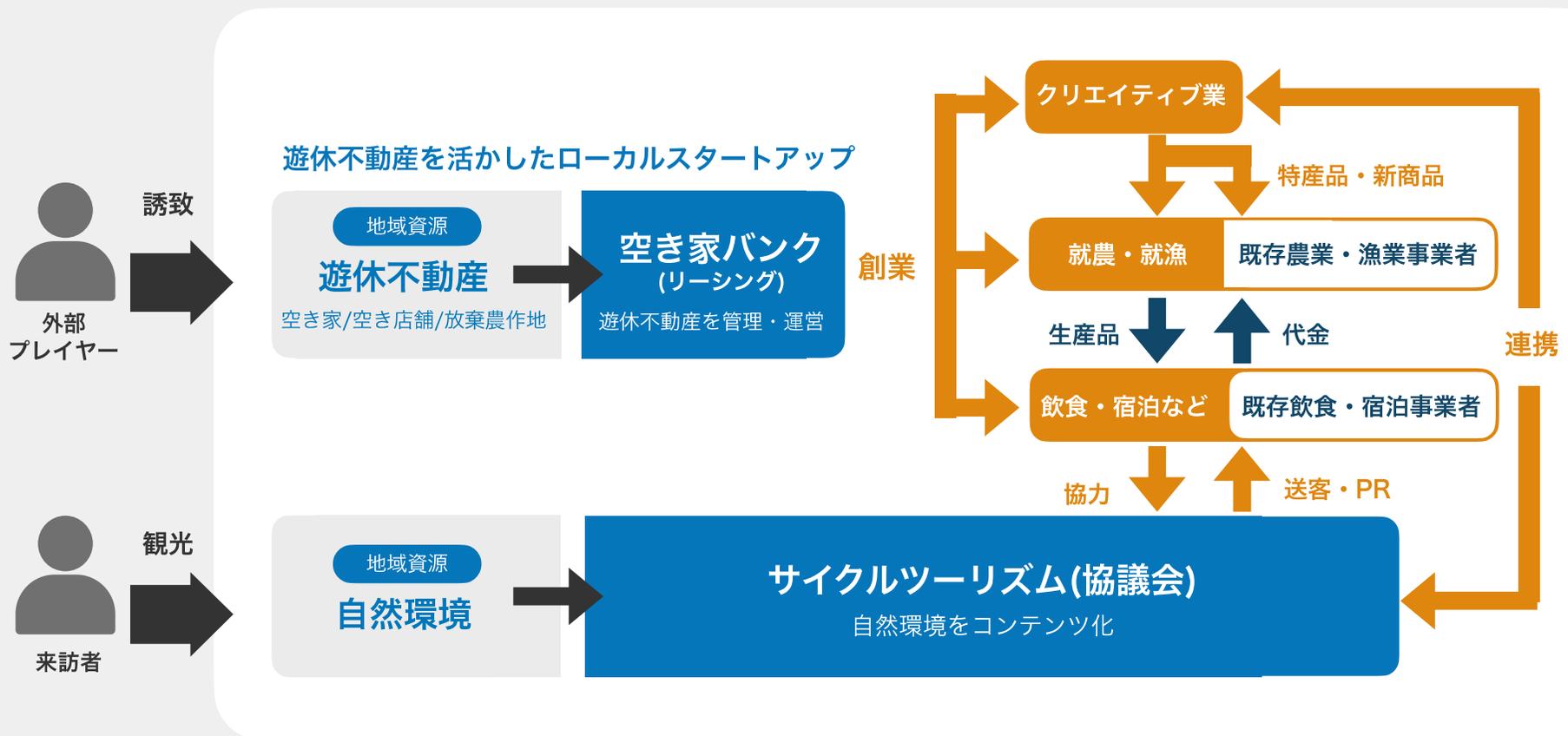
映像工房むすび (2018)

志賀島空き家バンクの連携図



サイクルツーリズムと不動産(創業)の関係

合気道まちづくり



新たな取組について

1. 観光

2. 不動産

3. デザイン



What's

“TRIBAL TOURISM”?

1

物理性

身体性、
空間体験(滞在)



2

土着性

自然や文化、
まちなみ、地元民



3

偶然性

季節や天候、
地元民との会話

Un-digitable領域を価値化することがローカルエリアの生存戦略

2つのメリット

自転車による
トライバルな旅行



地域の活性化

地域固有の自然や文化を主体的
に旅する自転車旅行の本質
＝トライバルなローカル体験

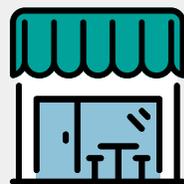
レンタサイクルを軸とした二次交
通の課題解決と域内事業者の連
携が生む地域活性

この仕組みを全国に広げたい

- ・ 専業、単独での有人レンタサイクル運営はコスパが悪い
- ・ ユーザーは人とのふれあいを求める



兼業・副業スタイルによる
レンタサイクル事業により解決！



既存事業



アドオン



レンタサイクル

Ridescapeについて



 **ridescape** 歩くより広く、クルマより深く。



ネット予約
システム



セルフ受付
システム



Ridescape
あんしん保険



車両管理・
保守システム



クレジット
決済機能



属性情報の
取得



WEBページで
PR

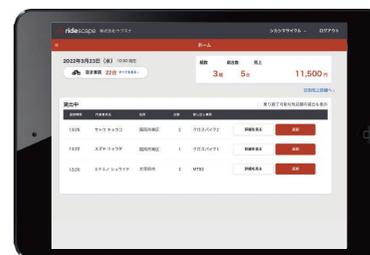
01.予約システム/運営システム

予約システム



煩雑な予約から決済の
窓口を一本化。
セルフ受付で対応コス
トを圧縮します。

運営システム



稼働も予約も、
漏れなく反映。
車両の管理も
手間なく把握。

02.ridescapeあんしん保険

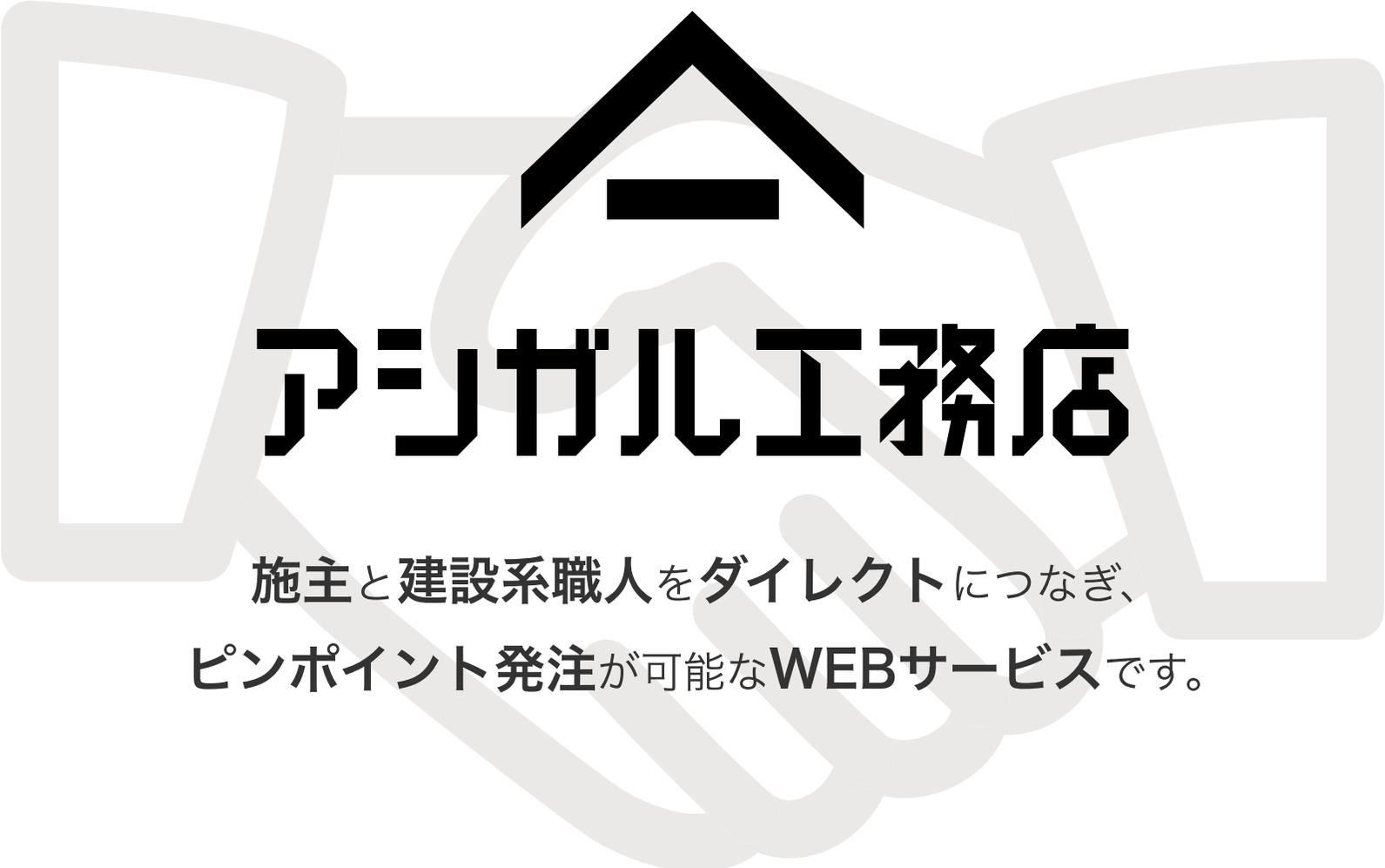


オリジナルの
「レンタサイクル保険」が
もれなく付帯します

03.車両のリース



レンタサイクル仕様に
カスタムした
スポーツバイク



アーキガル工務店

施主と建設系職人をダイレクトにつなぎ、
ピンポイント発注が可能なWEBサービスです。

アプリ一つで見積もりからオーダーまで
ワンストップなので手間をかけずに発注が可能です。

こちらからダウンロードできます

iOS



Android



← サービスWEBサイト
ashigaru.tools

スマホ
ひとつで
オーダー



最短で
1週間後に
工事

確かな
施工技術



見積もりが
すぐできる



福岡県
先行リリース

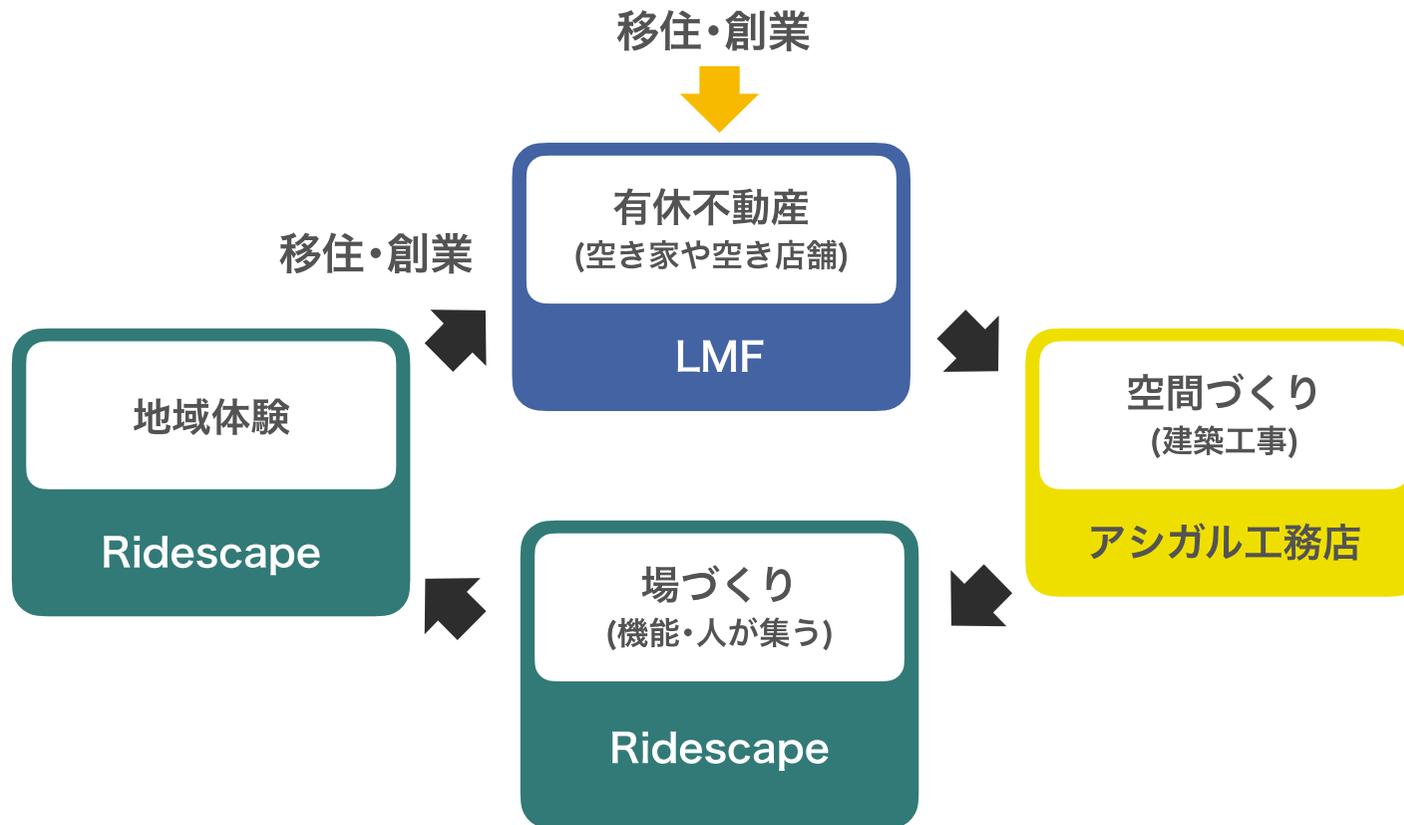
国内大手
メーカーの壁紙
約500種類

今後の取り組み

文化や地理などを背景に育まれた「土着的特徴を活かした観光」が基軸のまちづくりを可能にするプラットフォームを提供しています

広義の観光による持続可能な循環モデル

※広義の観光＝旅行者や移住者など外部因子の関わり



ご清聴

ありがとうございました。